

令和3年度 鶴崎圏域地域連携検討会

1 日 時 令和3年8月18日(水) 18:30~20:00

2 参加方法 Zoom ミーティング

3 内 容 鶴崎圏域の医療・介護連携について

(1)講話 「災害と自立支援～事例を通して学んだこと～」

講師：デイサービスセンター楽二目川センターマネージャー 児玉隆典氏

(2)グループワーク 「水害時などの避難において求められる高齢者の身体機能や環境調整について」

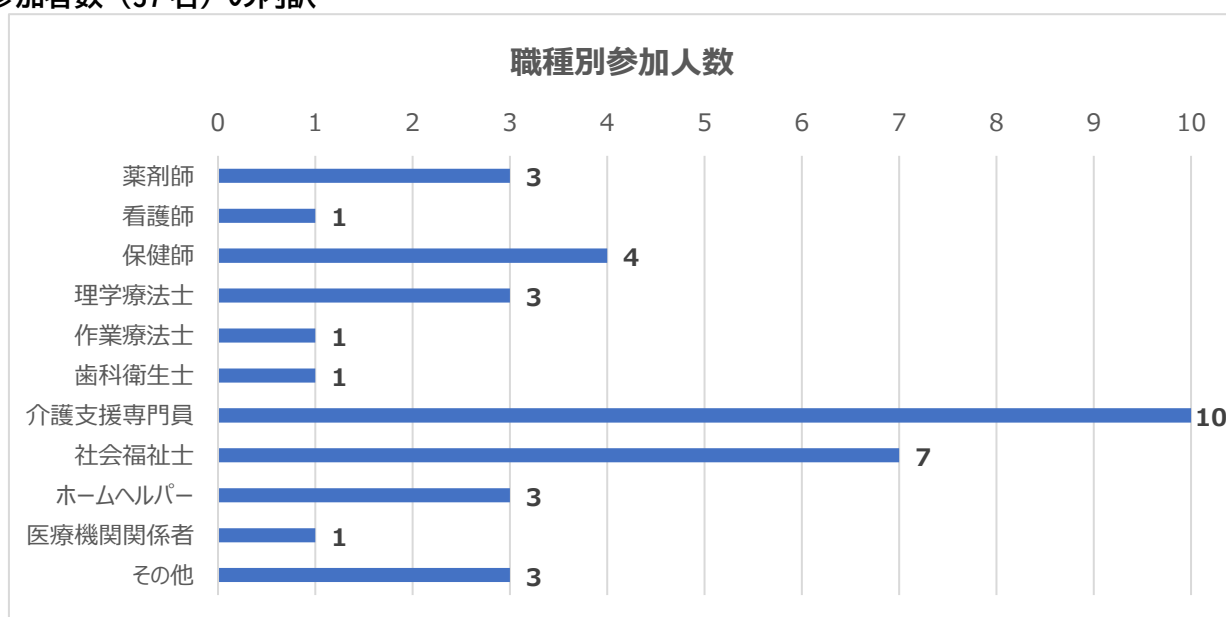
①水害など災害に対する避難訓練の経験がありますか？

または、実際の災害等支援に関わった経験があれば教えてください。

②有事の際、私たちは現場に駆けつけられるわけではありません。

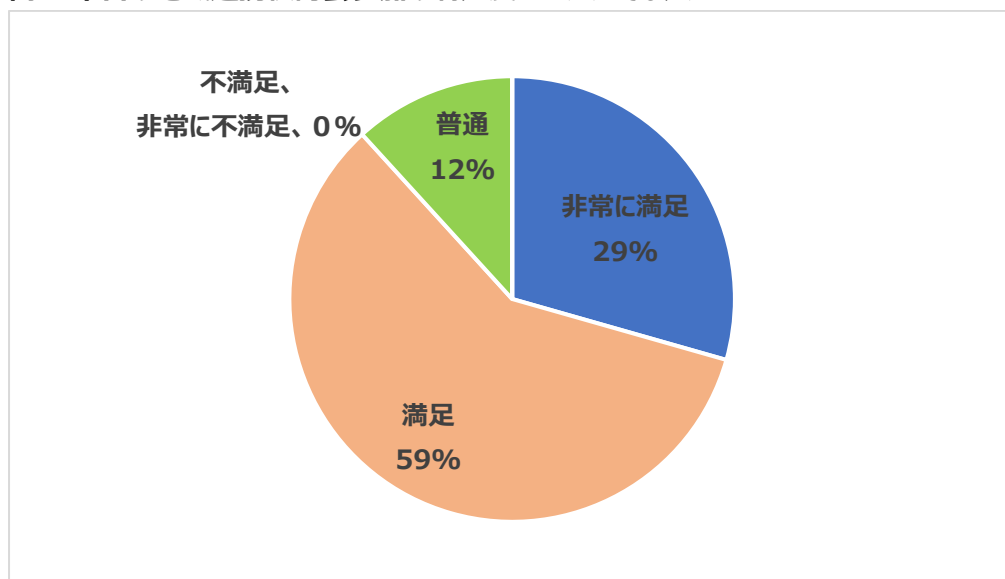
水害時に備えて、高齢者が自分の事を自分で護れるよう、支援者としてどのような助言をしていますか？

4 参加者数 (37名) の内訳



5 アンケート集計

問 1.本日の地域連携検討会参加の満足度はいかがでしたか？



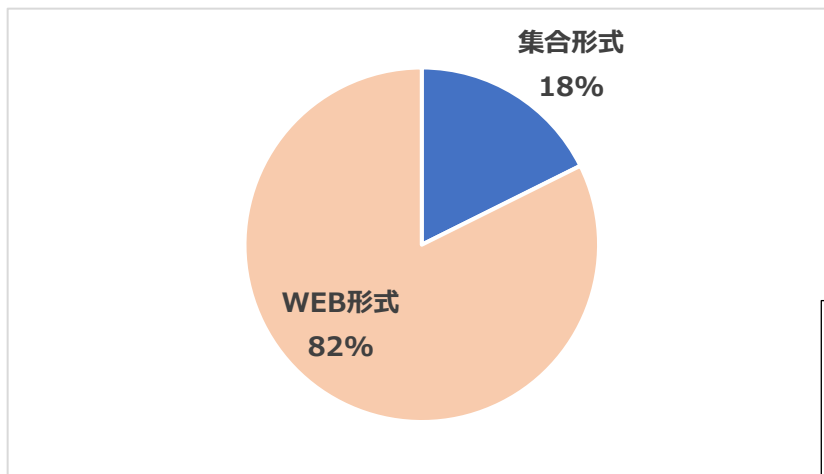
問 2.グループワークについて（話したかったこと、聞けなかったことなどお書きください）

- ・垂直避難を円滑に行うために、利用者どのような声掛けを行っていくことが重要かということ [作業療法士]
- ・皆さんの意見が聞いて良かったです。
皆さん、利用者さんの事を考えられていたので、参考にさせていただきます。 [介護支援専門員]
- ・1 班の災害本部での経験談が非常にリアルでした。実際どうなるのかをもっと詳しく伺えると、リアリティのあるシミュレートができるのではないかと思います。 [介護支援専門員]
- ・災害時の連携方法やそれぞれの職種の役割や考えを聞いてみたかった。
もう少し掘り下げたグループワークになればよかったです。 [介護支援専門員]
- ・ポピュレーションアプローチのできる市の保健師に何を求めるか、日頃から互いにどのような情報交換・共有ができるか話してみたい。 [保健師]
- ・各担当者様からの色々な意見を聞いて良かったです。 [相談員]
- ・地域の他職種の方々への取組みについて知ることができ、良かったです。 [薬剤師]

問 3.多職種連携で良かったこと、困っていることなど教えてください。（多職種に対しての要望や困りごとなど）

- ・事業所側として、ケアマネジャーさんと災害について、随時検討することが重要であることを気付かされた [作業療法士]
- ・専門的な話が聞ける、立場が違うと違う視点の見方がわかるなどが良いところです。
他職種の集まる会議も増えたことで変なわだかまりもなくなり、それぞれをリスペクトしながら、さらに深めていける関係になっていっているのではないかと考えています。 [介護支援専門員]
- ・それぞれの意見が聞けましたし、専門的な話も聞けました。お薬を常に余ってる状態で定期受診に行くことや避難時にはお薬手帳を持っていくなど。 [介護支援専門員]
- ・病院との連携が取りにくい。 [介護支援専門員]
- ・今回の研修を通して、日頃関わりの少ない薬剤師さんと交流ができて大変良かったです。 [介護支援専門員]
- ・多職種の意見や考え方が聞けてとても参考になった。 [理学療法士]
- ・良かったこと：自分一人では分からなかったこと、気付けなかったことが分かる。 [薬剤師]
- ・保健師 2 年目で、経験も浅く、触れてきた事例も少ない中で、毎年この検討会では多くのことを学ばせていただいております。各機関、各職種それぞれの視点で、定期的に情報交換ができるこの機会があることが大変ありがたいです。 [保健師]
- ・Zoom ではありませんが、顔も見れ、意見も交換できて良かったです。 [看護師]
- ・各職種の方々の取組みがわかり、良かったです。 [相談員]
- ・災害時の避難場所等への詳細が知れて、良かったです。 [薬剤師]
- ・患者様の困っていることに対して、専門職の方に対応していただけるのでよい。 [薬剤師]

問 4.①新型コロナウイルス感染症収束後は以前と同様に集合開催となりますが、参加しやすい開催形式を教えてください。



【意見】

参加しやすい開催形式は Zoom だが、直接会ってお話したいなと毎回思います。

問 4.②このような検討会（内容）にしたい、こんなテーマが良いなどありますか？

- ・本研修の内容を経て、再度同様の災害(各人・事業所が)に対して、どのように取り組んだかという、追跡検討会のような機会があればと思います。[作業療法士]
- ・今回のような災害の研修などは少しずつバージョンアップして、机上訓練などから実地に近づけ、地域ならではの連携の仕方を考えてみたい。[介護支援専門員]
- ・災害に関しては引き続きテーマにさせていただいていいと思います。[介護支援専門員]
- ・一つの事例でそれぞれの職種ができる事、視点を知る事が出来れば今後の支援の考え方が広がると思います。
[介護支援専門員]
- ・薬について-医療と介護のグループワークを中心とした検討会。[介護支援専門員]
- ・災害時に支援活動を行った方の話を聞いてみたいと思いました。その話を参考に鶴崎地域でそれぞれの職種のできることや優先することの話し合いができるといいなと思いました。[理学療法士]
- ・各機関、専門職が意見交換で自施設の取組みの見直しをするだけでなく、それぞれがどう補い合い、協力して圏域の体制をよりよくできるか考えられるとよいと感じる。[保健師]
- ・今回のようなテーマにそった施設の取り込み。
独居老人への関わり、老々介護家への関わり、障がい者をもつ家庭への関わり。[看護師]

問 5.その他、ご意見やご感想

- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。[理学療法士]
- ・災害について考える機会を与えて頂き、ありがとうございました。他人事ではなく身近な事として、平時に対策しておく事が、防災につながるのだと分かりました。[介護支援専門員]
- ・楽の児玉さんのお話は大変参考になりました。高齢者へ新しい情報を知らせる、一緒に考える、やってみよう、など自主性を育てて行くことは、大きな自立支援だと気がつきました。
「自分の命を自分で守るにはどうすればいいかを考えてもらう、そして、その足りないところを補う手立てを一緒に考えて、プランにする」このような、より身近で大事なプランを作っていきたいと思いました。他職種でそのプランにさらに専門的な要素を加えて行けたらいいと思いました。
「あそこのデイに行っていたからこそ、命が守れた」という格差が現時点ではあるのかもと思ったとき、事業所や法人の役割をもっと真剣に考えてみようと思いました。ありがとうございました。[介護支援専門員]
- ・今回の災害テーマなら地域の有料老人ホームや地域の人の（民生委員や消防署、警察署の方）などの参加していただくのはどうでしょうか？[介護支援専門員]
- ・初めのシミュレーションでどのように川が決壊し水害が起こるかをみて起こってもおかしくないと感じました。自分が日頃から何ができるかを考えるよい機会となりました。[理学療法士]
- ・旬なテーマでした。実際に住んでいる地域と働いている地域が異なりますし、地域での自分自身の役割（若者）と所属している機関での役割を改めて考えさせられました。[社会福祉士]
- ・翌日、顔を拝見した方と接する機会があり、顔と名前が一致しました。[薬剤師]
- ・講師の楽さんの取組みは勉強になりました。[看護師]

【講師への質問とその回答】

①デイサービス楽では、自立支援塾で講話を実施していますが、利用者個々で意識レベルの違いがあると思います。全体で講話をする中で、個別に利用者へ声掛けしたりすることはあるのか？また、意識を持っていただくようにするために良い声掛けがあればお伺いしたい。

[回答] 全体の講話時間は、約 10～15 分程度になっています。確かに利用者さんによっては、意識の違いというものがあります。当然、個別にお声掛けをさせていただきますし、自立支援塾の時間帯だけでなく、送迎時や、運動時など、来

所いただいている日々の会話の中でも、ご本人にお話をさせていただくこともあります。

更に、担当者会議なども活用し、自立支援塾の内容や取り組みを、ご本人様だけでなく、ご家族の方にもお伝えさせていただく機会を設けさせていただいております。

②避難リュックの重さについて、大体どれくらいの重さなのか聞いてみたい。（個人差はあると思うが目安として）

〔回答〕避難リュックの重さですが、必要物品によって、1 kg～1.5 kgになるうかと思えます。当事業所のリュックは、約 1 kg です。また、そのリュックを背負い、自主訓練や、屋外歩行練習の時間に“避難する練習”として、利用者さんに背負って、歩いていただく練習を行っています。

6 グループワーク協議

1 グループ

テーマ①：水害など災害に対する避難訓練の経験があるか？

介護事業所関係者（事務長）

・当施設は、避難所として市からマットを借りている。大雨の際、自宅で過ごすのが不安な人が 2 名避難してきた経験がある。

介護支援専門員 A

- ・事前にショートとかを考えることになると思うが、実際に調整したことはない。大雨が降りそう、緊急の警報が出たときには、電話で安否確認をしている。日々、2 階に上がれますかといった話をしたことがある。
- ・利用者の中には、大雨、台風で自宅の建物が危ないと判断したときは、個人的にホテルに泊まると聞いたこともある。緊急のアラームが鳴って心配な人が、事前に避難所の鶴崎公民館に避難したということもあったが、入口の階段がすごく大変で上れなかったという話を聞いて、避難場所として適当なのかと考えたこともあった。

社会福祉士

- ・津久見の実家が床上浸水し、道路の向かい側の家も床上浸水した。実家は大きな被害がなかったが、向かいの家は車が 2 台ともダメになり、道を一本挟んだだけで、同じ床上浸水でも被害の違いがあるという経験をした。急に水が上ってくるので、どう対処すればいいか分からなかったと聞いた。
- ・その後の掃除も大変だった。夏だったので、熱中症に気をつけながらマスクをして石灰を撒いたりした。断水で水も使えず、お風呂や炊事も難しく、大分市で水やからだ拭きのシートを調達し、実家に送ったり持って行ったりしていた。

ホームヘルパー（管理者）

- ・家島は海が近いので、雨というより津波や地震が心配。
- ・事業所として、雨だからと支援を断ることはまずない。ただ、利用者が気を遣って、大雨だから今日はいいいよという人はいる。

介護支援専門員 B

・ショートステイは高齢者しか使えない。台風の時にケアプランに位置づけたことはあるが、「家族と離れるのが辛い」「一人だけ残しておけない」という理由で、一度も使わなかった。高齢者の人は、避難だけでなく日頃から避難に対しての意識やリハビリをしっかりとするなど、いざとならないとなかなか真摯に考えられないところがある。これだけ災害とかが続いているので、ケアマネジャーとして視野に入れて取り組んでいくべきと思っている。

社会福祉士（地域包括支援センター）

・以前働いていた病院でのことだが、火災の避難訓練は定期的に消防署と連携を取り合って行っていた。災害が起こったときは、地域に病院が少なかったので、住民を受け入れるように病棟を開放しようといった話をしていた。

長寿福祉課

・職場で避難訓練を年に 1 回、火災があったときに備えた訓練をしている。今年は、避難所で段ボールのベッドを組立てたり、避難所設営をどうしたらいいかといった研修を受けた。災害支援については、熊本地震のときに避難所の手伝いに行き、高齢者にマットを配るなどの対応をした。

大分市在宅医療・介護連携支援センター

- ・前職で鶴崎支所にいた。鶴崎は、大野川と乙津川に挟まれ、殆どの土地が低いので水害が多発している。国交省も河川を掘削したり、できるだけ被害を少なくするようにポンプ場を作ったりしているが、完全に守られるわけではない。シミュレーション動画でもあったように、いちばん被害が大きくなるのは河川堤防の決壊。決壊を防ぐためにポンプを止めると、住居などがあるところの水位が上がって被害が生じる。以前他地区で、ポンプを止めたために一気に胸くらいまで地区の水位が上がり、消防署が船外機付きのゴムボートに照明器で照らして夜、住民を救出したことがある。
- ・高齢者や障害があっても、本人と家族がリスクを考えて、ハザードマップを見て、避難場所と避難経路を頭に入れておく、家族とそれを確認しておく。行政も早めに警報を出すようになっていたので、台風や水害がありそうなときは、とにかく早めに逃げる、近くの避難所に逃げる。道路が冠水した場合は避難所に辿りつけないということもあるので注意しておいた方がよいと思う。
- ・避難所には避難所要員がいたり、既に早めに避難している人や地区の人がいるので、おんぶしだりの支援は十分にできる。自宅での垂直避難は最後の手段と考えた方がいいと思う。鶴崎地区という地域性を十分知った上で、日頃からどういふふうに逃げるか、施設は、自施設がどこにあるかを考えて、避難の計画を持っていると、かなりの人の命を助けられると思う。鶴崎地区に雨が降っていいなくても、河川の上流域で大雨が降り一気に河川水位があがり、決壊しそうになったこともあったので、いろんな情報収集し、準備をして合理的な行動をとることが大事と思う。

テーマ②：有事の際に、私達、直ぐに現場、支援者のところに駆けつけられる訳ではない。水害時に備えて高齢者が自分のことを自分で守れるように支援者として専門門職としてどのような提案や助言をしていくか

介護事業所関係者（事務長）

- ・先ほどの講話で、運動、避難バックについてなど、網羅されていると思う。当施設が近くにある利用者・家族には、水害時に避難場所として説明する。その他鶴崎公民館や、自分が避難する予定になっている場所を知るといのもあると思うが、玄関がこうなっている、中に入るとこうなっているということも、配布するなどで例示するとよいと思う。例えば砂利道、2階建てといった避難先の情報を事前に知らせ、想定できるような工夫ができると良いと思った。

司会

- ・アンケートにもあったが、避難先で食料を提供してもらえている人がとても多い。ショートステイならば食事提供もあると思うが、例えば急な災害で介護保険施設に避難する場合、食事は自分で用意していくのか？

介護事業所関係者（事務長）

- ・施設利用者用の備蓄はある。配送状況等によると思うが、提供は可能と思う。ただ、日持ちするような携帯食を持って来ていただく大変ありがたい。

介護支援専門員 A

- ・先ほどの講話を聴きながら、私たちが家族としっかり話し合えるのは担当者会議。こういう状況なので会議がもてないこともあるが、災害、水害のときにどうするかを忘れずに話さないといけないと思った。こういう話が地区であつたりすると自分の中でも意識づいてやるが、一年通じてやるかといとなかなかできない。自分でしっかりと忘れないようにしながら、やっていかないといけない。どこまで脚力を使って逃げられるのかで下肢筋肉をつけていかなど、具体的に利用者の目的をはっきりすると意欲も高められると思うので、考えながら目標づくりをしたいと思った。

司会

- ・ケアプランに避難先を位置づけたりしたことはあるか？

介護支援専門員 B

- ・どこに逃げますかといった話をしたことはあるが、具体的にしたことはない。避難場所がわかったとしても、ハザードマップをもらってはじめてこんな水位になると知り、この高さで大丈夫だろうかということも再考した。地域にある避難所が本当に安全なのかということも含めながら一緒に考えたいなと思った。

介護支援専門員 B

- ・高齢者でも連絡がとれる、コミュニケーションがとれる人は、家族と緊急時に連絡がとり合える態勢を確保するといった意識づけが、最近の災害の状況からみると、個々でやっていくべき、話ができたらなと思う。
- ・利用者は重度の人、動けない人も多い。利用者の中にお母さんをすごく大事にしている娘さんがいて、台風がかなり続いたときに不安になって、シミュレーションでお母さんを車に乗せられるかやってみた人がいる。ご主人に手伝ってもらってできたが、その時に課題がみつかった、足を上げるときは足台があることがわかり、車にいつも置くようにしたという人がいる。

ホームヘルパー(管理者)

- ・実際に避難することを考えたとき、先ほどの講話にもあったように、お薬手帳と一緒に三日分くらいの薬をすぐに持って出られるようにしておくといい。すぐにお薬の手配をするのが難しく、本人の手元に届かない。絶対に飲まない命に関わるような薬が必要な人は最低でも三日分くらいは避難する時には必ず持って出ると意識づけすると良い。勿論お薬手帳があれば、その後の分くらいは何とか手立てができないことはないが、直近の避難後の2～3日がすごく大事だと思う。

司会

- ・72時間どのように乗り切るかも課題だと思う。在宅酸素、呼吸器で停電時の経験とかある人は？

ホームヘルパー(管理者)

- ・支援している子どもで、酸素呼吸器、吸引があるが、避難した先は、一時的には避難してもそこでずっとは引き受けない、その後のことは自分で探してくださいといわれる。大分市内どこもそうだと思う。どうするかという話を（家族と）する。公民館で何日も受け入れるのは厳しいと思う。その後はある病院で受け入れるとして、そこもずっとは受け入れませんとはっきり言われた。本当に困っているので、そういう時にはどうしたらいいか、安心してしばらく過ごせるというルートを作ってもらえるとありがたい。それが現実なので、もし、よい方法があれば教えていただきたい。

司会

- ・難病の人にはそういう課題がずっとあると支援者の人も協議会でも言われている。

介護支援専門員 A

- ・ALSの担当だが、その部分はすごく疎い。家族が車のバッテリーとか準備しているという話を聞いて、訪問看護師がそこにがちり入っていて、絶対に支援に行きますと言っているので、任せているところがある。地域として水が出たり、沈みそうなところなので、聞いておかないといけなかった。以前の担当者から、しっかりと計画が立てられているような感じはある。

長寿福祉課

- ・まず自分の身は自分でというところがあるので、市民に周知する機会でも話していきたいと思う。

大分市在宅医療・介護連携支援センター

- ・高齢者と障がい者、災害弱者といわれる人、特に介護や支援とか受けていない独居の人は地区の人も把握していない人は個人情報の問題もあって、行政としてもずっと課題としてきたが、なかなか良い解決策が見当たらない。

2グループ

テーマ①：水害など災害に対する避難訓練の経験があるか？

薬剤師

- ・父から聞いた別府での話になるが、地震発生時、妊婦さんが高台へ避難するのに坂道が多く苦労したという話があった。体もきつかったと思うが、想定していなかったこともあり避難先から戻るまで不安そうだったという話を聞いた。

テーマ②：有事の際に、私達、直ぐに現場、支援者のところに駆けつけられる訳ではない。水害時に備えて高齢者が自分のことを自分で守れるように支援者として専門職としてどのような提案や助言をしていくか

介護支援専門員 A

- ・一番気になるのは独居の高齢者。近くに家族がいない独居高齢者は、すぐに動けず、避難手段で心配になることがある。

介護支援専門員 B

- ・3.11 の時、ヘルパーとして支援に入っていて利用者さんと状況をテレビで見えていたが、どこか他人事、大分ではないというのがあった。その後、自身が横浜に転勤をしたら地割れが凄かった。小学校の避難訓練を家族で行うことがあったが、全員の椅子に防災頭巾があったことが大分とは違い、大分ではまだ他人事だと体験した。

介護事業所関係者（相談員）

- ・事業所全体として大分市内で 450 名の支援をしているが、6 割以上の方が 65 歳以上の高齢者。2 階以上は階段を利用するため、通常の生活面での不便さから 1 階を希望される方が多いので、なるべく 1 階を紹介している。現在、社内で防災面に関して検討しているが具体的なところまでは正直なっていない。
- ・男性専用シェアハウスの入居者 9 名中、4 名が車イスの人で、入居の際には近隣の避難場所を説明している。実際にいざ避難となった時、避難は車イスを使用していない 5 名を中心に、車イスの人を手助けしながら協力して避難するようこのシェアハウスでは運営をしている。実際の避難行動や体制づくりの構築などこれから必要だが、現在はお互いに助け合いながら避難するという運営になっている。

理学療法士

- ・地震による停電の中でも階段を利用して上層階へ避難することになるので、階段を登れることが第一。同じ 2 階でも、自宅より病院は高さが高いことなども気かけながら、日頃から運動、リハビリを意識していくことはとても大事だと思う。
- ・実際に片足立ちや、歩行テストの遅い人などフレイルに当てはまる人は、特に注意喚起をしておく必要がある。鶴崎は乙津川と大野川に挟まれているので、垂直避難が大事だということを日頃から利用者に話していくことが大事だと思う。

保健師（保健所）

- ・コロナ禍で事業もストップしており、高齢の人と会う機会が少なくなっているため、具体例として話せることがない。コロナ感染も一種の災害だと思う。よくあることではない事が他人事になるのは、人間の特徴として当然なのかと思う。平時から皆で連携して対策を行うことが大切だと思う。
- ・保健師としてできることは、現在は健康推進員さんとの関りが主になるので、そこから地域に発信していければと思う。

薬剤師

- ・必要な人には、1 週間分の予備の薬を持って欲しいと声かけをしている。災害等で受診できなくなると、避難所の薬局に長蛇の列ができ、災害で残った僅かな薬の中から必要な分だけを少しずつしか出せず、負担をかけてしまう。急に受診できなくなることに備えて 1 週間分くらい備えてみてはどうかと声かけをしており、災害にも役立つのではと感じた。

介護支援専門員 A

- ・糖尿病の患者さんでインシュリン注射をしている人が災害に備えて薬を準備していたが、新しいものから使用していたので予備の薬が古くなってしまっていた。訪問時には、その部分も視野に入れておかなければいけないと思った。

介護支援専門員 B

- ・家族に意識してもらおうという意味で、ケアマネジャーとして担当者会議で家族が災害に対してどう考えているのかを確認すべきだと思った。
- ・講話の中で出てきた避難用バッグの重さを知りたい。重さが分かれば、リハビリ専門職に実際に持てるかどうか聞くこともできるので連携（相談）しやすくなったと思った。

理学療法士

- ・現在デイを利用している人で考えてみると要支援 1、2 の方はレベルが良く、独居の人も多い。個人差もあるため、実際に避難バッグを準備して、背負って、歩行や階段昇降の評価を行い、課題があれば自主訓練につなげていくのがよいと思う。

介護事業所関係者（相談員）

・専門職が色々と考えているが、本人が災害に対して他人事だと感じているように思う。30年前と現在では、台風や梅雨の雨の降り方が昔とは全然違う、線状降水帯という言葉もなく、ここまで酷くはなかった。高齢者と若い人とは、大雨に対しての意識に差があるのではないかと感じる。災害に対しての体制づくりと同時に、高齢者に対して昔とは違うという意識付けと防災の協力をお願いする活動も必要ではないかと個人的に思う。

コーディネーター（大分市在宅医療・介護連携支援センター）

・昨年の台風の事前避難に関して聞いた話だが、昨年は大型の台風と報道もされ、自宅で生活する人に対して事前に施設に避難するなどの対応をしたと聞いた。避難経路がすぐに冠水してしまう場合は早い段階での避難が必要になる。また要介護5で避難するのも大変なので避難しない選択をした家族もいたと聞いた。災害発生時に自身で避難行動に移せる人と、そうでない人がおり、介護度の重い人に対してもどうしていかを考えていかなければならないのかなと思う。

司会

・別府市の取組みで障害のある人への支援で、地域の人を巻き込んでの訓練に最初は非難や反対する人もいたが、障害はその人の特徴だと捉え、協力し合うようになり、理想の姿だと思った。実際にはまだまだ難しいところがあるのも現実だと思う。

保健師（保健所）

・コロナ感染の聞取りの際に持病の有無に加え、外出を控えてもらうために2週間分の薬の確認をしている。災害など平時とは違う事が起こった時の準備は、コロナ感染と共通する部分があると感じた。保健所のコロナ対策として行っていることが自然災害に役立てられると思った。

・避難バッグもの声かけもするが、ハザードマップの確認も大切なので市民に発信していく方法を考えていきたいと思う。

司会

・働きかけが私たちにできる第一段階だと思う。災害避難、例えば救急車を呼ぶなど普段と違う行動は高齢の人は特に躊躇され、難しいと感じている。必要な時は背中を押してあげることが大切だと思う。

・課題は多く出てきたが、顔を会わせて話げできたことで連携もしやすくなると思うので、これからもよろしく願いたい。

3 グループ

テーマ①：水害など災害に対する避難訓練の経験があるか？

介護事業所関係者（事務長）

・昨年大きな台風がくるということで（結果としてこなかったが）、町内会長から、独居で1人では避難しづらいという人20名弱を法人内の施設で避難訓練、水害訓練を行った。一晩泊まり、食事を提供し、帰ってもらうという体験をしてもらった。

テーマ②：有事の際に、私達、直ぐに現場、支援者のところに駆けつけられる訳ではない。水害時に備えて高齢者が自分のことを自分で守れるように支援者として専門職としてどのような提案や助言をしていくか

薬剤師 A

・災害時全般になってくるが、手帳を持ち歩く癖をつけるように伝えている。高齢者の人では、どんな人でも運動して筋力をつけてもらうように指導している。

薬剤師 B

・薬の手帳が第一に重要なこと。薬手帳があることで、薬がない患者さんに薬を渡すことができた例もある。携帯のアプリもあるが、災害時には電源がなくなってくるので、紙の重要性もあわせて伝えている。

介護支援専門員 A

・ハザードマップを鶴崎圏域の利用者に配り、避難場所の確認等を一緒に行った。以前、大きな台風が来た時に、利用者か

ら避難をするのに車いすを貸してほしいと直前で言われ、福祉用具の事業所が休みだったりして困った経験がある。

介護支援専門員 B

・まだあまり経験がなく以前の流れがよくわからないが、ハザードマップを用いて、こういう時にどこに避難するかを確認を利用者と話し、今後のことについて対応を考えることが大事だと思った。

ホームヘルパー

・災害時にヘルパー支援をする対策をひとりひとりに対しては、正直あまり考えたことがない。地域の中に、ヘルパー事業所と少人数の有料老人ホームがある。大きな事業所と違って、夜勤は 1 人体制。実際どうやって避難するか、誰から車に乗せるかという優先順位を考えてはいる。海が近いので津波を想定した時に、実際に間に合うのかというはわからない。避難訓練などはしているが、地域の方に頼りながらしていかないと難しいかなと思う。

保健師（長寿福祉課）

・地域包括支援センターが、地域の中で地域ケア会議として地域の自治会長や民生委員、いろんな関係者が集まって会議が行われている。その中でこの数年、他圏域でも災害の時に地域でどうするのかというテーマが多くあがっている。地域の地形を把握し、どこにどう避難するか、連絡体制、日頃からの啓発が大事ということを共有している。問題があればどうやって解決するのかということを協議しているので、これからも地域のみんで考えて、災害時に備えることが大事なのかなと思う。

司会

・災害の状況に応じ、避難方法も変わってくる。夜の避難では足場も悪くなる。その人のおかれた環境で避難方法もかわってくると思うので、日頃の様子を把握する必要がある。

・介護支援専門員 A の話にあったように、車いすなどの物品が急遽必要になった時にどういった対応をとるのがよいか？

介護支援専門員 A

・実際に車いすが必要と言われたときは、東部行政センターに職員がでていたので、家族が車いすを借りたことで解決した。あとで考えたら、鶴崎のスーパーにも車いすがあって、地域の商業施設や遊興施設も避難場所になっていると聞いた。そういった施設の方の協力も得られるといいのかなと思った。

介護支援専門員 B

・以前、社会福祉協議会に勤めていたことがある。その時に県南の災害ボランティアに参加し、災害後のニーズ調査などの支援を行った。県内でも様々なところで水害があるので、実際にボランティアセンターを立ち上げる社会福祉協議会に、情報共有を提供してもらいたいのではないか？

介護事業所関係者（事務長）

・鶴崎は川に挟まれているので、堤防が決壊すると急速する。ある程度階段を昇る事ができればいいが、岡山の真備町の話にもあったように逃げようと思っても逃げられず垂直避難をしなくてはいけない時、夫婦の片方がベッドで寝たきりの時にどうするのか？ どんどん水があがってくる、逃げられない、垂直避難しなくてはいけないけど、片方は階段を昇る事ができない。実際に真備町では 1 階で溺れて亡くなっている。これをなるべく減らすにはどうしたらいいのか知りたい。もちろん 2 階に水や非常食、ポータブルトイレや替えのものを置いておけばいいが、片方の人が動けない時にどう対処するのか？ ライフジャケットでも着ていれば少しは被害が防げるのか？

介護支援専門員 A

・そうなる前に避難をすすめる。その時に安全な場所までどうやっていくのかというのをケアマネジャーとして一番動かなくてはいけないかなと思う。助けがあれば、人手があればという話になるのか？

介護事業所関係者

・真備町で亡くなっている人は、ほとんどがそうした人たち。夫婦で、片方が動けず、2 人とも亡くなっているという人たち。

コーディネーター（大分市在宅医療・介護連携支援センター）

・自分は何とかなると楽観視している人が多いという話があった。ハザードマップ配布とあわせて、本人が自力でどうしたいかを考

える事が大事ではないかと思う。

司会

- ・最後は本人の意思決定になるかと思う。介護支援専門員 A の話にあったが、ショートステイやホテルを確保することを先に考えるが、本人がそこに行かないとなった時どうするかを考えなくてはいけない。事前に現状をハザードマップで知ってもらい、避難しないのであれば地域の人と密接な連携が必要で、何人いれば 2 階にあがれるかを支援者として把握しなければいけない。
- ・高知県では、ケアプランに避難する際のことも明記している。地域の避難訓練だけでなく、個々人で訓練をシミュレーションしておくことも必要。生存確率をあげていく働きかけとして、意識づけや自助努力について変えていかなければいけない。

薬剤師

- ・逃げるという意思がない人については、消防の人に迷惑をかけない人にとと思う。逃げたいけど逃げられない動けない人に救助に行きたいので、逃げない人は「逃げない」と伝えてほしい。本人も迷惑をかけたくないと思うので・・・。

司会

- ・講義の資料にあったように、最初は避難しないと言っている家族の説得で避難した。その理由として、「消防の人に迷惑をかけられない」という意見があった。逃げない人も人に迷惑をかけたくないというのがあると思う。

4 グループ

テーマ①：水害など災害に対する避難訓練の経験があるか？

看護師

- ・数年前に病院の地下が浸水したことがあったが、水害時の避難訓練はしたことはない。去年はできていないが、災害訓練を毎年しており、いつもなら 1 階を災害本部にするが、津波を想定して、3 階を災害本部にして訓練をしたことがある。

医療関係者

- ・通常の避難訓練の中で、水害についての行動に関する訓練まではできていないが、通常の避難訓練時に水害時にはこういう行動を取って下さいとお伝えする程度。

作業療法士（講師）

- ・事業所として、年 2 回、避難訓練を運営規約に則って実施している。事業所が明野地区の高台にあるので、水害の危険性はないかなと思う。でも、別店舗が水害時には浸水する可能性が高い地域なので、水害が起こることも想定し、年 2 回の避難訓練に併せて、水害時の避難方法も話をしている。高台にある事業所に避難するように想定している。

介護支援専門員 A

- ・過去、水害後に訪問して聞き取りしたら、自宅に残った人が多かった。高齢、脚もよくないので避難せずに自宅に残ったという話を聞いた。避難するにしても避難場所が遠すぎる等、近所の人も同じ高齢者ばかりなので、みんなで逃げておねという地域もあった。
- ・過去に三佐圏域で災害時避難の話し合いがあり、避難先が高台のビルになっており、施設に入居中の高齢者を避難させる等を地域で話し合いが持たれたことがあった

介護支援専門員 B

- ・去年の 9 月に台風が来た際に、休みの日でも連絡がつかない状況で、利用者家族から避難をしたいが、雨もひどくなり車いすもないので、どうしようかと相談があった。どこにも連絡がつかなかったので、鶴崎支所に連絡をしたら車いすが 1 台あり、借りて避難したことがあった。そういった時に、いざ避難するとなったときに逃げる物がないので、そこは考えていかないといけなくて昨年思いつつ、そのままになっている。そこが課題であり、避難先の過ごし方で豊しくない環境で、豊に寝てしまったら家族が介助できないので、困っているところがあった。

ホームヘルパー（管理者）

- ・今まで水害等なく経過してきたが、水害までなく台風等あったとき、利用者宅に安否確認で連絡を入れたりしている。

テーマ②：有事の際に、私達、直ぐに現場、支援者のところに駆けつけられる訳ではない。水害時に備えて高齢者が自分のことを自分で守れるように支援者として専門職としてどのような提案や助言をしていくか

看護師

・包括で独居高齢者の把握をしていると思うが、安否確認となった際に、ケアマネジャーがついている人と包括とで役割や分担等をしているのか？

司会

・居宅と連携しての役割分担等はない。包括職員で、介護保険の利用の有無に関わらずそれぞれ担当利用者がいる。その中で一人暮らしの人で避難が困難等も把握しており、必要に応じて安否確認の連絡を入れたり、訪問をする等対応を取っているが、徹底されているわけではない。マニュアル等を作っていくかと思う。

作業療法士（講師）

・包括の職員が、介護保険の利用の有無に関わらず一人暮らしの人にはなにかしらの形で関わっているのか？

司会

・登録があって全員とは限らないが、拾い起こせる限りで全部は覆いつくせるものではない。利用はないけど相談があったり、何かしら関わっている人であれば、定期的とは言えないが、担当を振り分けて関わるようにしている。介護保険業務が忙しいので、関わりが充分ではないと思う。もう少しきちんとできるようにすると良いのかなと思うが・・・。

作業療法士（講師）

・独居高齢者の把握、口伝えで聞いていたりするのか？大分市からそういった人がいると連絡があったりするのか？

司会

・まず民生委員の一人暮らしの名簿を事業所 PC で登録している。

作業療法士（講師）

・一人暮らしの人が水害にあった際に、自分自身で避難の判断をするのが難しいと思うが、そういうときはどうしたら良いか？自助・互助・共助・公助とあるが、まずは自助かなと思う。でもお互い助け合うという地域の力を高めていかないといけないかなと思うが、そうなった時に民生委員との連携であったりを事業所側として強く結んでいかないといけないと思っていることや、包括・病院・ケアマネジャーが繋いだりと様々あると思う。自立支援という中で、避難の判断をそれぞれの立場で支援や促しができるのか伺ってみたい。

看護師

・病院側としては、そういう支援は考えられない。個人的に思うのは、避難勧告等発令した際に近所、民生委員の人がどう声掛けし、避難させるか。ご近所付き合い、民生委員、ケアマネジャー、包括の声掛けが一番なのかなと。

社会福祉士

・病院としてはなかなか思いつかない。個人として、住んでいる地区よりもっと小さい隣保班という中で、実際に誰がどこに住んでいるのか、誰が一人暮らしなのか、ここは家族がいるか等の把握はしている。どんな状況になったらどこに避難するかは隣保班で決まっているが、逃げられないかもしれないということを想定していて、その時に誰かが迎えに行くとかは地区で話している。

司会

・今のような視点でいくと、介護支援専門員も話していたが、自立支援に向けてどんな声掛け、振り返ってみて、去年の経験も踏まえ発表いただいたが、足りなかったこと、今度はこんなことをしてみたいということがあれば伺いたい。

介護支援専門員 B

・昨年も急に避難という話が出てどうしようかなと考えたが、日が去ると本人も家族も私自身も忘れていたことが少しあるので、訪問時に緊急時どうするのか話し合いを持って把握しておきたいと思う。

介護支援専門員 A

- ・どうしても災害の時期にならないと意識づけがなく、災害が起きた後に聞き取りをすることが多い。地域を回っているところも、川に挟まれているところが多く、川に近い人もいる。一人暮らしの方々に対して聞き取りをしっかりとしないといけないと思う。どちらにしても逃げ場が少ない地域なので、考えなければいけない。またコロナ禍なので、地域の集まりも少ないのかな。地域住民がいざというときの話し合いの場もあるといいのかな。そういった場にケアマネジャーとして参加できると良いのかなと思う。

作業療法士（講師）

- ・もし、災害（水害）を想定したとき、ケアプランに入れずとも避難、有事に備えて等の文言をどこかに入れて、本人・家族に意識づけをしていただくために文言を入れるところがあるのか？

介護支援専門員 A

- ・文言を入れるなら、プランの方が良いかな。本人の意識づけになるのかな。

介護支援専門員 B

- ・プランの中か、話し合いの内容を家の中で目に見える場所に貼ってもらう方が良い。会議の時に話し合いをしても忘れ去られる。みんながいる担当者会議等で話をして、実際に目につくところの方が良いのかな。

講師

- ・介護支援専門員 Bと一緒に担当している人が、水害がある地域になるのかな。なにか良い方法がないかと思ったときに、介護支援専門員 Bの案で目に見えるところに貼っておくことは名案と思った。

ホームヘルパー（管理者）

- ・水害の恐れがある際には、事前に利用者の地域を確認して、勧告等が出た際には利用者宅に連絡をして、避難をしてもらうなり、介護度が重たい避難のできない人は、家族に避難方法を事前に確認しておく必要があるかと思った。

司会

- ・講話を聴いて避難時を想定して防災リュックを実際に背負って歩く、荷物の準備をする、とても具体的で自立支援に基づいており、私たちもプランに位置づけて目標にできたら強く思った。避難先に行くために足腰を鍛えたり、自分で荷造りができる、本人自身に意識をもっていただけたらよいなと思った。ケアマネジャーとして災害に向けてのプランを考えていきたい。
- ・日頃から、災害時に利用者や、このエリアはどうかなど、常に意識を持ちながら結びつけていかないといけないと思った。時間が経てば意識が薄れていき、時間もかかるだろうが、介護支援専門員の話にあったように積み重ねていかないと形になっていないのかな。日頃からそういう意識を持って、私たちが声掛けをしていかないといけないと思った次第。
- ・母親が住んでいる地域では、地域の中の隣保班の中にお助け隊というグループを作りながら、この人になにかあったら助けに来てなど、班を作って、災害だけではなく、いろんな場面で助け合いをしていると聞いている。そういう話を聞いて、こういうことを地域の人たちが作りながらきたんだな、その陰で圏域の包括の力もあったのではないかなと思う。我々も取り組んでいけたらと思う。

医療関係者

- ・災害となると病院として、自院としてマンパワー不足になり機能維持が精いっぱいになると思う。病院として地域の人と交流することがなかなかないので、現状は自院も古くなっているため機能維持、災害（水害）を想定するのに現状追われて、なかなかそこまで回っていかない。住んでいる地域にお願いしているのが現状。

作業療法士（講師）

- ・利用者の命を考えた時に、どうやって自身で命を守っていくのが課題だと思う。事業所として考えるときは、あくまでも手助けしかない。その現場に行って全部の手助けができるわけでもない、気持ち、知識面での自立支援であるとか、逃げるための命を守るための身体機能の維持・向上、活動性をどう担保していくか？ケアマネジャーと一緒に利用者をどう元気になっていくのか考えて、頭の片隅にはどうしたら有事があったときに避難ができるのかというところと一緒に考えていかないといけないと思った。事業所がそれをただするわけではなく、多職種による支援、地域での連携をしっかりとらないといけないことには、病院の力も必要になってくる。地域単体だけではなく、大分市全体で考えていくべきところだと考えている。皆で連携していきながら地域単位でどう考えていくかをふまえて、今後の担当者会議等に臨んでいかないといけないと思った。